

平成 31 年 2 月 日

会 員 各 位

一般社団法人山形県歯科技工士会  
会 長 櫻井 利浩  
学術担当 尾形 清敏

## 第 40 回 山形県歯科医師会・山形県歯科技工士会

### 共催学術講習会のご案内

本年度の共催学術講演会では、大阪より重村宏先生をお招きし御講演いただきます。新しく構築されたシステム「第3の補綴」別名 3DR の理論と実際、そして咬合の可視化、定量化、標準化を図ることで生まれたこれまでとは違う咬合治療の方式を解りやすくお伝え頂きます。今後の臨床への新しいアプローチになると思われます。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

【会場】 山形県歯科医師会館  
【日時】 平成 31 年 3 月 10 日

9 : 30 受付開始

10 : 00 開会『第 3 の義歯（3DR）は歯科補綴の未来を開拓できうるか』

12 : 00 昼食

13 : 00 午後の部開会 『結果の出る咬合治療のための  
新しい咬合理論と客観的なシステム』

16 : 00 閉会

【開催コード・単位】 94-50501 10 単位  
【参加申し込み】 同封ハガキ又は山形県技工士会事務局 Tel・Fax0236-65-4370  
Eメールアドレス [info@yamasigi.org](mailto:info@yamasigi.org)  
【参加費】 歯科技工士会会員 1.000 円（昼食代を含む）  
未入会員 5.000 円（ ）  
【申し込み締め切り】 平成 31 年 3 月 4 日まで  
※ 6 日以降キャンセルの方は後日会費を頂きます。

## 第1部 第3の義歯（3DR）は歯科補綴の未来を開拓できるか

激動する現代にあって、多くの人々の価値観もそれにつれて変化しているようである。それは、歯科を取り巻く環境においても徐々に患者さんたちの意識の変化が起こってきているようである。その傾向として、歯を削ってのクラウン・ブリッジや骨を削らなければならないインプラント治療などの、体の一部を削除しなければならないことへの強い抵抗感を持つ患者さんが増えてきていることである。しかし、不可逆的な治療を嫌ったとしても残された選択肢は、過去から様々な問題を指摘されている部分床義歯しかなく、歯科補綴の選択の限界を痛感するのである。この壁を破るものとして「第3の補綴」別名「3DR」と呼ぶシステムを構築した。このシステムが、患者さん側に立ったものであるかを理論と実際とともに提示したい。

現在の歯科補綴は、AI、CAD/CAM化によって形骸化の一途をたどっている。歯科技工士の雇用も失われてゆく恐れが叫ばれてきている。この時代に、皆様と持続可能な歯科補綴について考えてみたいと思います。

## 第2部 結果の出る咬合治療のための新しい咬合理論と客観的なシステム

近年の歯科医療は、様々な分野において停滞感や閉塞感の漂う環境の中にあると思われます。その中で咬合治療への重要性が注目されてきています。患者の生きる価値観と密接な「咬合」をコントロールできることは大きな戦略的価値があることは認識されてきました。しかし、「咬合治療ほど解りにくく、不採算なものはない」、「咬合研修を受けても実践に応用できない」と思われてきました。

これらの問題から、私達は10数年前より画像診断を用いて①咬合治療の可視化②咬合治療の定量化③咬合治療の標準化を図ってまいりました。顎関節のCTによる撮影しか個別性の高い顎関節の解剖学的形態や位置関係を理解することはできません。また術者が顎関節周辺の解剖学と生理学に精通していなければ正しい評価ができないのは当然のことです。この解剖学を咬合に取り入れることによって今までとは異なる咬合へのアプローチが生まれます。これらのJPI方式を、3Dをまじえて誰にでも理解しやすい容易な形でお伝えしたいと思います。

講師 重村 宏 先生

#### 講師略歴

1978年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校卒業

1984年 貴和会歯科診療所勤務、JIADS 研修会講師

2005年 JPI (Japan Prosthetic Institute) 講師 2014年 Japan Craft.JPI 株式会社設立

2018年 TenDent International 株式会社 代表取締役会長就任

現在 日本顎咬合学会 指導歯科技工士 日本口腔インプラント学会 会員

#### 主な論文

咬合に関する私たちの考えと臨床システム 補綴臨床 1987.11

インプラント上部構造におけるアクセスホールの処理 Q D T 1993.6~7

遠心鑄造の可能性と限界 Q D T 1995.2

現代の臨床補綴(共著) 1998 クインテッセンス出版

新適合論 Q D T 2002.1~2

適正下顎位 Q D T 2004.10~12

コバルトクロム合金のクラウン・ブリッジ臨床への応用 補綴臨床 2014.3

解剖学的咬合の理論と実際 補綴臨床 2018.1~3

